

千葉県版「人口ビジョン」「総合戦略」の概要

千葉県人口ビジョン

I 千葉県の人口の状況分析

- ・2060年の総人口は433.5万人。(2010年に比べ約188万人、30.3%減少)
- ・高齢化率は、2060年には39.5%まで上昇(2.5人に一人が高齢者)。
- ・2014年の合計特殊出生率は、国1.42に対し県1.32。

II 人口の将来展望

◆目指すべき将来の方向

①地方創生に向けた本県の基本的な考え方

ア 本県が果たすべき役割

本県は、これまで東京圏の一翼として日本の発展を支えてきたが、将来的にも、

- ・日本の成長のエンジンであり続けること
- ・若い世代が希望どおり結婚・出産・子育てをすることができる環境を実現するとともに、人口減少に伴う地域の変化に柔軟に対応すること
- ・世界をリードする「国際都市」へ発展すること

という役割を果たし、千葉の地方創生が、日本の創生につながるよう、取組を進めていく必要がある。

イ 千葉の「強み」

本県の持つ「宝」である

- ・豊かな自然環境・魅力的な観光地・優れた都市機能
- ・成田空港、アクアライン、圏央道など優れた社会基盤
- ・農業や漁業、工業、商業のハイレベルでバランスの取れた産業構造を、最大限に活用することにより、千葉県という空間で様々な価値観に対応した「働く場」「子育ての場」「住まいの場」「憩いの場」を、提供することが可能であり、この総合力の高さこそが本県の「強み」。

ウ 強みを生かした取組

地方創生の実現のためには、行政のみならず、県民、企業などと本県の目指すべき姿を共有し、一丸となって取組を進めることが必要であることから、「②目指すべき将来の方向」を設定し、オール千葉体制で地方創生の実現に向けた取組を推進する。

②目指すべき将来の方向

◎「暮らし満足度日本一」の千葉

「千葉で生まれてよかった」「住んでよかった」「働いてよかった」と誇れる「暮らし満足度日本一」を実現し、あらゆる世代が笑顔で住み続けられる千葉を目指す。この実現のため、【3つの基本方向】を設定する。

国内外の人々が集う千葉の実現～人口の社会増～

人々に居住地として選ばれるには、通勤可能な範囲内において魅力ある雇用の場があることが重要であるため、本県の優れた資源をフルに活用し、雇用の場の拡大や、都心へのアクセス強化等を行うことにより、地域に住み働ける県づくりを進め、経済そして住の面から東京圏を支える。

また、東京オリンピック・パラリンピックに向けた取組をオール千葉体制で推進し、多くの外国人が様々な目的のもと訪れ、暮らしやすい「国際都市」へ発展させる。

親子の笑顔が溢れる千葉の実現～少子化への挑戦～

優れた都市機能と、豊かな自然を併せ持ち、子育てに係る多様な価値観に対応できる環境を有するという本県の優位性を生かし、「子どもを生み育てるなら“千葉”」と選ばれる県を目指し、若い世代が安心して結婚、出産、子育てのできる環境づくりを進める。

オール千葉で支え合う安全・安心に暮らせる千葉の実現

～人口減少に対応した県づくり～

人口減少や高齢化が進む中、様々な価値観を持つ人が、住みたい地域で、元気に安全で安心して暮らせる環境を整えるため、医療・介護・福祉をはじめ、様々な分野におけるサービス機能の確保に向けた取組を進めるとともに、多様な主体が連携協力して、県民が健康で安全かつ安心に暮らすことができる県づくりを進める。

③千葉県の将来人口（2060年の人口を試算）

- 出生率 2030年に1.8、2040年に2.07（国準拠）と仮定
- 社会移動・転出者のうち23.7%（本県に再び「とても住みたい」とする人の割合）が戻ると仮定：541万人
 - ・なお、転出者のうち53.1%（本県に再び「とても住みたい」、「やや住みたい」とする人の割合）が戻ると仮定：576万人

千葉県総合戦略（2015～2019年度の5か年）

総合戦略Ⅰ：東京オリンピック・パラリンピックを契機とした「世界中から人々がやってくるCHIBA」づくり

2020年東京オリンピック・パラリンピックが、千葉県内においても競技開催されることは、本県の発展に繋がる「宝」を磨き、発信することにより「世界中から人々がやってくるCHIBA」を作り上げるチャンスである。この実現に向けた取組は、新しい人の流れを創出し地域経済の活性化を図るとともに、多様な主体が連携し安全で安心して快適に過ごせる環境を整備し、子どもたちが誇れる千葉を「オール千葉体制」で作り上げるものであり、まさに、地方創生の核となるものであることから、「東京オリンピック・パラリンピックに向けた千葉県戦略」を本戦略に位置付け、地方創生の実現を目指す。

- ◆大会の成功・開催効果の全県への波及
- ◆キャンプ・国際大会・MICEの誘致
- ◆成田空港の利便性向上、交通ネットワーク・アクセスの強化
- ◆バリアフリー化の促進
- ◆魅力ある観光地づくり
- ◆外国人受入体制の整備
- ◆国際交流の促進
- ◆戦略的な千葉の魅力発信

総合戦略Ⅱ：地方創生の実現に向けた千葉づくり

千葉における地方創生を確実に実現するには、それぞれの地域において、その特性を生かした取組を進めることが必要であり、住民の生活に密着した市町村の果たす役割が重要である。このため、以下の【4つの基本目標】を設定し、市町村と目標を共有し、市町村が取り組む、地域の課題を踏まえた意欲と創意工夫による地域づくりを広域的な立場から支援するための施策を展開する。

(1) “一人ひとりの働きたい”がかなう千葉づくり

産業の振興や新たな雇用の場を創出することで、人々は住み続け、多くの人が転入することにより地域経済は活性化するという更なる好循環を生み出すこととなる。

このため、本県の地理的優位性（東京への近接性、豊かな自然環境等）、優れた社会基盤（成田空港、アクアライン、圏央道、千葉港等）、バランスのとれた産業（全国上位に位置する農業、水産業、工業、商業）をそれぞれの地域で生かすことで、各産業の振興を図り、若者等にとって魅力ある雇用の場を創出するとともに、将来を支える産業人材の育成・確保を図る。

また、将来的には、県内各地域において千葉で働きたいという人の希望がかなえられるよう、交通アクセスの整備や雇用の場の創出に取り組み、首都圏の平均通勤時間である1時間圏内に雇用の場が確保されるよう取り組む。

- 地域の特性に応じた戦略的な企業誘致の推進
- 力強い農林水産業の確立
- 未来を支える新産業等の振興
- 京葉臨海コンビナートの競争力強化
- 中小企業の活性化支援
- 地域の創意工夫による経済活性化の取組の促進
- 主要都市間の交通アクセス整備

(2) “国内外の多くの人々が集う”魅力あふれる千葉づくり

各地域が持つ資源を徹底的に洗い出し、日本人のみならず、日本を訪れる外国人の視点からも魅力のあるものに磨き上げるとともに、国内外の誰もが過ごしやすく住みやすい環境づくりを進める。

また、「魅力の宝庫 ちば」を国内外に積極的に発信し、移住・定住の促進、交流人口の増加を図る。

- 国際都市として発展するCHIBAの基盤づくり
- 居住地として選ばれる千葉づくり
- 国内外の誰もが訪れたい観光地づくり
- 大学等との連携による地域への若者の定着促進
- 千葉の様々な魅力の国内外への発信

(3) “それぞれの結婚・出産・子育ての希望”がかなう千葉づくり

若い世代の結婚・子育ての希望を実現し、子どもたちが心身ともに健やかに生まれ育つためには、妊娠・出産・子育てに係る多様なニーズに応じて、誰もが安心して子どもを生み、育てられる環境をつくることが重要である。

このため、妊娠・出産から子どもの自立までを総合的に支援するとともに、若い世代の経済的な安定を確保することにより、少子化の流れに歯止めをかけ、次代の千葉を担う子どもたちの成長を支える。

- 若い世代の経済基盤の確保と子育てに係る経済的負担の軽減
- 妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援
- 働きながら生み育てやすい環境づくり
- 千葉に愛着を持ち、地域や世界で活躍できる子どもの育成

(4) “安全・安心な暮らし”がかなう千葉づくり

人口減少・少子高齢社会においても、様々な価値観を持つ人が、本県が有する健康的な生活を支える多彩で新鮮な食材やスポーツに親しむ環境も生かしながら、地域で元気に安全で安心して暮らすことができるよう、高齢者等が健康で生き生きと暮らせる環境や、地域内外の多様な主体が地域を支える仕組みを整えるとともに、既存ストックのマネジメント強化などにより、人口減少・少子高齢社会に対応したまちづくりを進める。

- ◆生涯を通じて健康で生き生きと暮らせる地域づくり
- ◆地域コミュニティの再生と担い手づくり
- ◆快適で暮らしやすいまちづくり
- ◆安全に暮らせる地域づくり
- ◆地域連携の強化

総合戦略を支える【4つの基本的視点】

- (1) 中長期的かつ総合的な取組
- (2) 千葉を愛し、時代を担うひとを育む取組
- (3) 本県の特性や強みを生かした取組
- (4) 地域間の連携した取組

一過性の対症療法的なものではない、中長期的かつ総合的な取組を進める。千葉に愛着を持ち、相互に支え合う「ひとづくり」の取組を進める。本県の特色や地域資源といった「千葉の宝を徹底的に生かした」取組を進める。防災、医療・福祉をはじめ、県内の地域間連携や近隣県との連携促進を図る。